



救命救急センター30周年を迎えて

市立札幌病院救命救急センターは、1983年6月1日に診療を開始しました(当時の名称は、「救急医療部」)。

2013年6月1日、ちょうど発足から30年目にあたる日に、京王プラザホテル札幌に於いて発足30周年祝賀会を開催いたしました。

院内、院外から数名の幹事を選定し、1年前から準備を開始しましたが、勤務歴のある医師、看護師の人数が膨大であるため、名簿を作成することがまず最初の大作業となりました。

幸い、世はインターネット時代、主な連絡にはメールを用い、数百名への連絡作業も効率的に行えました。

当日、約160名のOB、OG、現役スタッフの参加を得て、当院の富樫正樹院長による来賓としてのごあいさつで始まり、初代責任者(主任医長)の手戸一郎先生(その後の当院院長)による発足までの経緯・裏話や初期メンバーの献身的な働きぶりなどを伝えるスピーチ、発足時メンバーの一人で現在北海道大学大学院救急医学分野の丸藤哲教授による乾杯と、にぎやかな祝賀会が進行しました。

参加者は札幌市内・道内はもとより全国から(アメリカからの参加者もいました)集まり、旧交を温め、思い出を語り合い、高揚した楽しいひと時を過ごしました。

すべての方々とはお話ができなかったのが残念でしたが、多くの方が厳しくも楽しかった当時の思い出を語りながら、当センターでの経験がいかに自分を成長させたか、今の仕事や人生に影響を与えているか、ということを強調されていました。

当日ご参加いただいた方々だけでも、各機関、各分野のリーダーが大勢いて、当センターの歴史、存在の大きさを改めて感じました。

この30年間、当院救命救急センターが活発に活動し成果を上げ、社会的な評価を得てこられたのは、院内各部門、診療科などによるバックアップ、札幌市役所、市議会、市民の方々によるご支援・ご協力、消防局(救急隊)、医師会、市内・道内の医療機関などとの連携があったからこそです。

30周年を節目として、市民・道民のための救急医療の「最後の砦」としての役割を再度確認し、患者さんから、また、医療機関からの信頼に応えられるようにスタッフ一同精進していきたいと思っております。

当センターは、事前の手続きの有無に関係なく、緊急、重症で救命救急医療・集中治療が必要な患者さんに関するご依頼は、市内・道内のすべての医療機関から受け入れております。当院との連携医療機関にとっても、背後に我々の援護があることで安心感を持っていただけるよう、努める所存です。

今後とも当院救命救急センターへのご指導・ご鞭撻とご協力をお願いいたします。

簡単ではありますが、当院救命救急センター30周年祝賀会のご報告をさせていただきます。



初代主任医長
手戸先生のご挨拶

初代看護師長
寒河江氏のご挨拶



救急部発足時メンバー



現在の医師メンバー